

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	鶴見区
学 校 名	榎本小学校
学校長名	篠崎 勇

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・榎本小学校では、第6学年 163名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○本校の平均正答率を全国平均と比べると、国語は - 1.8、理科は - 1.1ポイント低く、算数は全国平均より 1 ポイント上回っている。  
 ○大阪市平均との比較では、算数・理科で1ポイント上回っていて、国語は大阪市平均と同じである。  
 ○国語・算数・理科ともに無解答率は全国平均よりかなり低い。  
**【四分位区分】**  
 国語では区分Ⅳ（学力に課題の見られる割合）に該当する数は全国と同じ、算数では全国よりも少ない結果で、大阪市教育振興基本計画の施策目標に達している。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

### 〔国語〕

内容別正答率を見ると、「言葉の特徴や使い方」において全国平均を上回る結果となっている。他の5つの内容は全国平均を下回っていて、中でも「情報の扱い方に関する指導」の正答率が全国平均との差異が大きく、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に課題が見られた。

### 〔算数〕

領域別正答率を見ると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」において全国平均を上回っている。「データの活用」領域は出題数5問の内3問は全国平均を上回っており、グラフと関連付けて項目間の関連を読み取る問題の正答率が低かった。

### 〔理科〕

区分・領域別正答率を見ると、A区分「エネルギー」「粒子」、B区分「地球」は、全国平均に及ばないが大阪市平均を上回り、B区分「生命」においては、大阪市・全国平均を上回っている。

質問調査より

○児童質問紙調査の結果から、本校の児童は問題に対して最後まで解答を書こうと努力したと答える割合が全国平均よりも大きく、粘り強く問題に取り組んでいることが分かる。  
 ○学校の授業時間以外に1日あたり行っている勉強時間数で、2時間以上の割合が全国平均より大きい一方で、30分未満（全くしないを含む）に当てはまる割合も全国平均を大きく上回っている。学校外での学習時間の二極化傾向が見られる。  
 ○朝食を毎日とる、毎日同じぐらいの時間に寝て起きるの項目で、最も肯定的な回答の割合が全国平均を上回っていて、生活習慣が安定している。

## 今後の取組(アクションプラン)

国語科でみられる課題の取り組みとして、本年度は「読む力を育てるための国語科指導の工夫」を取り上げ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて校内研究を行っているところである。全教員による教材研究、授業実践など、今後取り組みを深化充実させていくことで、本校児童の国語力の向上を図っていけるようにしたい。

学校の授業以外で取り組んでいる学習時間が二極化の傾向が見られる。特に、学校外で学習に取り組む時間が30分未満と答える割合が全国平均より10ポイント近く高い。予習・復習を含めて、家庭での学習の取り組みについて、家庭との連携を図り具体的な内容を積極的に学校から提示することで児童が自立的に学習に取り組む態度を培っていく必要がある。

学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーの取り組みにより、学習指導法や児童理解について授業をベースにした学びの場として活用していく。